

オキ探 -11月の隠岐の自然- 12月号

日本の固有種・アカハライモリ

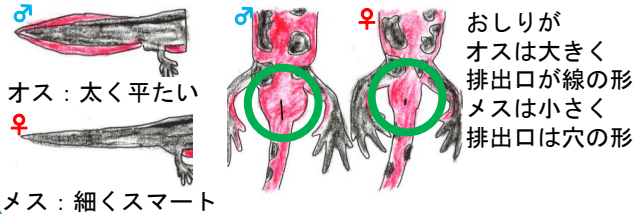
水田が近い森の入り口でアカハライモリを発見しました。このイモリは名前のお腹が赤いイモリです。アカハライモリは隠岐固有種のオキサンショウウオと同じ両生類（りょうせいりい）です。隠岐では色々な場所で見られるアカハライモリですが、実は全国的には減ってきていて環境省の準絶滅危惧種に登録されている動物です。今月号はアカハライモリについて深掘します！

アカハライモリはどんな動物？

- ・サンショウウオ目イモリ科
- ・日本の固有種
- ・分布：本州、四国、九州、隠岐、佐渡島、奄岐、五島列島
- ・いる場所：低地～山地の水田、池、湿地、川岸の水たまりなど
- ・絶滅危惧種：27都府県で絶滅危惧種に登録され、日本のレッドデータブックにも準絶滅危惧種として登録される。

Q. オスとメスの見分け方は？

A. 主にしっぽの太さとおしりで見分けます



Q. お腹はなぜ赤い？

A. お腹が赤いのは、周りに自分が危険だとアピールするためです。実際に皮膚から「テトロドトキシン」という猛毒を分泌しています。人間は触っても害がない程度ですが、触ったらきちんと手を洗いましょう。



撮影日：2021年11月18日

左：アカハライモリの全身、右：アカハライモリの顔



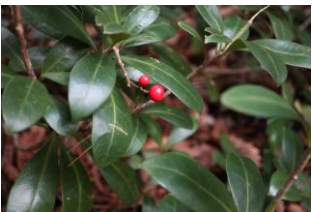
スタッフが観察した植物



ムラサキシキブの実（紫式部）
全国の温帯・亜熱帯に分布。6月頃にピンク色の花を咲かせ、11月頃に紫色の美しい実をつける。
花期：9～11月
場所：知夫里島（島前）
撮影日：2021年11月10日



ヤブコウジの実（藪柑子）
夏ごろに白色の花が咲き、秋から冬にかけて赤い実を付ける。常緑林の暗い環境に多く、冬になると林床を赤い実で彩る。
花期：7～8月
場所：鷲ヶ峰（島後）
撮影日：2021年11月29日



ツルシキミの実（蔓櫛）
地面からしなるように生え、30～100cmほどの大きさになる低木。葉をちぎると柑橘系のいい香りがする。
花期：4～5月
場所：鷲ヶ峰（島後）
撮影日：2021年11月29日



キッコウハグマの種（亀甲白熊）
秋に小さく可憐な白い花を咲かせる。種子はふわふわした綿毛がつく。
花期：9～10月
場所：大満寺山（島後）
撮影日：2021年10月16日



オモトの実（万年青）
暖か地域の林床下に生える多年草。初夏から薄緑色の花を密集させて咲き、冬には赤い実がみのる。
花期：5～7月
場所：鷲ヶ峰（島後）
撮影日：2021年11月18日



ツワブキ（石蓐）
他の花が終わったところに黄色の花が咲くため、初冬の季語になっている。茎の部分はフキと同じようにキヤラブキとして食べられる。
花期：10～12月
場所：布施（島後）
撮影日：2021年11月1日

参考文献

林 将之（2016）山溪ハンディ図鑑14樹木の葉、759pp、山と溪谷社、東京
林 弥栄・門田裕一・平野隆久（2019）山溪ハンディ図鑑1野に咲く花、664pp、山と溪谷社、東京
門田裕一・永田芳男・畔上能力（2018）山溪ハンディ図鑑2山に咲く花、616pp、山と溪谷社、東京
島根県環境生活部自然環境課（2013）改訂しまねレッドデータブック2013植物編、254pp、公益財団法人しまね自然と環境財団、島根

スタッフが観察した動物



ザトウムシの仲間

長い8本足に、小さな一對の目が特徴の昆虫。刺したり噛んだりはない。

虫の死骸や木の実を食べる、森のお掃除屋さん。

場所：大満寺山（島後）
撮影日：2021年11月18日



ツチハンミョウの仲間

青光りした、丸々とした胴体の特徴の昆虫。オキ探6月号にも登場。この日は5月に比べ、気温が下がったせいか、動きが鈍かった。

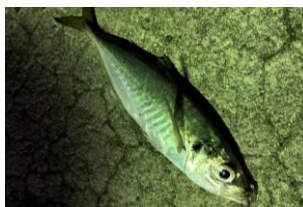
場所：鷲ヶ峰（島後）
撮影日：2021年11月29日



マイマイカブリ

長い頭とひょうたん型の胴体の特徴的な昆虫。隠岐には隠岐固有の「オキマイマイカブリ」がいるが、今月観察できたのはマイマイカブリ。オキマイマイカブリとは前ばねの先端の形で見分ける。詳しくは、オキ探10月号へ！

場所：大満寺山（島後）
撮影日：2021年11月18日



マアジ

沿岸から沖合にかけて中層や低層に群れを作って生活し、イワシ類やイカ類を食べる。30cmを超えるものを尺アジと呼ぶ。

場所：西郷湾（島後）
撮影日：2021年11月24日



ウミネコ

「ミャーミャー」と猫のように鳴くことからウミネコと名付けられた。布施地区の方の話によると早朝から晩まで元気に鳴き続けるそう。一年中群れで生活し、漁港、河口、岩礁、内湾などに多い。体についた塩水や寄生虫を落とすために淡水で水浴びをする。撮影した布施の平島近くには春日川があり、ウミネコが水浴びしていた。

場所：布施平島（島後）
撮影日：2021年11月1日



平島から飛び立つウミネコ



オオミズナギドリ

体長約49cm、大きな翼をもち上げると、120cmにもなる。

日本周辺の離島で土の斜面にほった穴や岩の隙間を巣にして集団繁殖する。木登りや穴掘りは得意だが、飛び立ち、着陸が苦手で、着陸時は木や草の上に落ちるように着地する。

日本では6か所が繁殖地として国の天然記念物にしてされている。そのうち2か所が隠岐諸島の西ノ島町・星神島と隠岐の島町・沖ノ島である。撮影時、夜に卵敷の海岸でオオミズナギドリがじっとしていた。明るい光に向かう習性があり、帰り道に迷い、卵敷海岸にたどり着いたのだと考えられる。

場所：卵敷海岸（島後）
撮影日：2021年11月2日



今年生まれた幼鳥なのか、産毛がまだ残っていた。

スタッフのひとりごと風

抹茶のにおいがする？粉をまとった岩。

大満寺山を登ると、登山道の途中に濃い緑色の粉を振りかけたような岩が所々にあります。これは何なのだろうか？と思い、指にとると緑色の粉が取れる取れる！香りを確かめると、なんと抹茶の香りがします！

調べましたが、何かは分かりませんでした。分かる方ぜひ教えてください！



粉の拡大

緑色の粉は触るとサラサラしていた。



粉をまとった岩。遠くからみるとジオラマの山のように

【お問い合わせ】

(一社) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

担当：立花

TEL：08512-3-1321 Fax：08512-3-1322 Email:info@oki-geopark.jp



隠岐の大切な自然を守るために、ルールとマナーを守りましょう。

自然公園では動植物を許可なく採取することは法律で規制されています。